

ファイザー製、モデルナ製の新型コロナウイルスワクチンの接種対象が、12歳以上に広がった。既に打った、あるいは接種券が届いたという家庭もあるだろう。各地で感染が再び拡大する一方

で、子どもは接種時の副反応の頻度が大人より高いとされ、保護者としては打たせた方がいいか、悩ましいところだ。判断の際に考慮したい点を整理した。
(植木創太)

子どもへの接種 どうする？

新型コロナウイルスワクチン 対象年齢拡大

「成長途中の子どもが打って大丈夫なのか」。中学二年の長女(ミミ)に接種券が届いた七月上旬、愛知県の男性会社員(40)は「正直悩んだ」と振り返る。

厚生労働省のホームページなどで副反応について調べて説明したところ、長女の返事は「打ちたい」。学校を休みたくなかったというのが大きかったようだ。かかりつけ医で同月中に二回の

接種を終えた。一度目の後は腕の痛み、二度目は三八度の熱が出たが、数日で治まった。

新型コロナウイルスは、年齢が下がるほど重症化の可能性は低くなる。国の集計(四日時点)によると、八十代以上は感染者の七人に一人が亡くなっているが、二十代は二万五千人に一人。十代以下で亡くなった人はいない。この数字と、コロナワ

クチンの主な効果を発症・重症化の予防と考えれば、接種の利点は限定的だ。

ただ、二十歳以下の患者の中には、発症後に重症化して複数の臓器に炎症が起きる「小児多系統炎症性症候群」を合併する例がある。最新の米国の論文では、感染者百万人に三百十六人。厚生労働省の手引によると、国内でも少なくとも四件の報告がある。

加えて気になるのは、感

接種する・しないを 考えるポイント

主な比較点

感染の可能性は？

- 感染状況
- 人との接触頻度
- ウイルスの感染力

どのリスクを重視？

- 重症化のしやすさ
- 後遺症の頻度や重さ
- 感染した際の生活への影響
- 副反応の頻度と重さ

周りへの影響は？

- 身近な人の重症化リスク
- 医療機関の逼迫度

しない

副反応なし
打った人より発症・重症化しやすい

打った人より厳しい感染対策が必要

することによる影響

感染しても発症・重症化しにくい

副反応の可能性

周りに感染させにくい

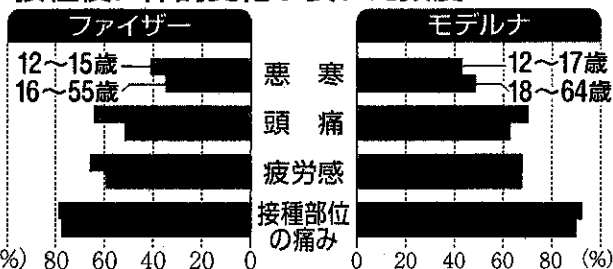
流行を抑えることにつながる

個人

家族・社会

※厚生労働省の資料や吉川さんへの取材を基に作成

接種後に体調変化が表れた頻度(年代別)



※いずれも接種2回目。臨床試験結果を基にした厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会資料から

受験生らに利点 / 体調変化頻度高め

感染力の強いデルタ株が流行の中心になり、十代の感染が増えていることだ。接種が進む各国の実績からは、ワクチンが感染を防ぐ効果も明らかになっている。

日本ワクチン学会理事で藤田医科大学小児科学教授の吉川哲史さん(60)は「基礎疾患がある子は受ける意義が大きい」と話す。

健康な子でも、感染すると少なくとも十日程度隔離されることから、テストの機会を逃したくない受験生などにはメリットがある。また、コロナは感染後、嗅覚や味覚の障害などに悩む人がいる。子どもに高い頻度でこうした後遺症が現れることが分かってくれば、打つ価値が出てくる。

心配な副反応はどうか。海外の臨床試験結果で、副反応が出やすいとされる二回目の接種後で比べると、体調変化の出た割合は若い年代の方が若干高い。グラフ。また、接種先行国では、若い男性を中心に、心臓の筋肉に炎症が生じる「心筋炎」などの報告も。六月中旬までに三億回以上接種した米疾病対策センター(CDC)によると、疑わしい例は百万件に四件。頻度は

ごくまれで、ほとんどが入院すれば回復するが、吉川さんは「念のため一週間は激しい運動を避けて」と話す。接種が進むシンガポールも、二回目の接種後について同様の呼び掛けをしており、今後、情報に注意する必要があるだろう。

もう一つ、気を付けたいのは、接種後、緊張や痛みから気分が悪くなって失神したりする「血管迷走神経反射」だ。脳が貧血状態になるのが原因で、比較的若い世代で起こりやすい。リラックスできるという意味でも、普段から診てもらっているかかりつけ医で打つのがいいだろう。

接種のメリットは、住んでいる場所の感染の広がりや重症化しやすい人が身近にいるか、感染者が多い都市部との往来があるかなども導く。免疫を持つ人が増えれば収束へ近づくが「判断は人それぞれで、打たないという考えも尊重されるべきだ」と吉川さんは言う。その上で「出どころがあまりない情報には頼らないことが大事」とも刺し、日本小児科学会のホームページなど信頼できる情報源を確認するよう訴える。

接種のメリットは、住んでいる場所の感染の広がりや重症化しやすい人が身近にいるか、感染者が多い都市部との往来があるかなども導く。免疫を持つ人が増えれば収束へ近づくが「判断は人それぞれで、打たないという考えも尊重されるべきだ」と吉川さんは言う。その上で「出どころがあまりない情報には頼らないことが大事」とも刺し、日本小児科学会のホームページなど信頼できる情報源を確認するよう訴える。

接種のメリットは、住んでいる場所の感染の広がりや重症化しやすい人が身近にいるか、感染者が多い都市部との往来があるかなども導く。免疫を持つ人が増えれば収束へ近づくが「判断は人それぞれで、打たないという考えも尊重されるべきだ」と吉川さんは言う。その上で「出どころがあまりない情報には頼らないことが大事」とも刺し、日本小児科学会のホームページなど信頼できる情報源を確認するよう訴える。

接種のメリットは、住んでいる場所の感染の広がりや重症化しやすい人が身近にいるか、感染者が多い都市部との往来があるかなども導く。免疫を持つ人が増えれば収束へ近づくが「判断は人それぞれで、打たないという考えも尊重されるべきだ」と吉川さんは言う。その上で「出どころがあまりない情報には頼らないことが大事」とも刺し、日本小児科学会のホームページなど信頼できる情報源を確認するよう訴える。

接種のメリットは、住んでいる場所の感染の広がりや重症化しやすい人が身近にいるか、感染者が多い都市部との往来があるかなども導く。免疫を持つ人が増えれば収束へ近づくが「判断は人それぞれで、打たないという考えも尊重されるべきだ」と吉川さんは言う。その上で「出どころがあまりない情報には頼らないことが大事」とも刺し、日本小児科学会のホームページなど信頼できる情報源を確認するよう訴える。